

10年かけ人工林整備

沼津・愛鷹
運動公園内 NPOが活動報告会

県東部地域で森林の環境保全活動を行うNPO法人「環境整備・森と竹で健康クラブ」(貞清恒天代表)は19日、沼津市の愛鷹運動公園内で活動事業報告

会を開いた。クラブ会員らが10年間にわたって整備したヒノキ人工林の森林散策エリアを視察した。



貞清代表(右端)の説明を受け現地を視察する頼重市長(右から2人目)＝沼津市の愛鷹運動公園内

クラブは2005年に設立され、県東部に住む60～80代の25人が週2回程度、沼津、富士岡市などで人工林や放置林を整備している。このうち、広さ10畝に及ぶ同公園内での整備は10年から始まり、「市民が気楽に散策できる森林公園」を目標に活動を展開。会員によると、公園の森林は当初、ほとんど手つかずで荒れていたため、土砂流出が発生する危険性もあったという。

を植樹し、森林公園の目玉となる「木の花咲くやゾーン」も整備した。

報告会で貞清代表は「これまでの活動を理解してもらい、ほっとしている。市の森林公園として位置づけてもらえたら」と話した。散策エリアの視察には同市の頼重秀一市長も参加し、「初めて足を踏み入れるエリア。気軽に訪れる環境に整備されていて感動した」とねぎらった。

(東部総局・水野紗希)

これまでの活動では、ヒノキの間伐のほか、約2きにわたる遊歩道周辺の枯れ木除去や階段修復などを継続的に実施。台風などで倒木が発生した場所には四季を通じて楽しめる木